

2004 年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究助成金報告書

ウェブログを用いた情報・コミュニケーション教育手法の開発

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 修士2年 松村太郎

概要

ウェブログ (blog) は近年アメリカで社会にインパクトを与えるメディアとして形成し、ツールが輸入された日本でも爆発的普及を見ている。個人向けウェブサイトの一形態で、こまめに記事単位で更新されるという特徴を持つ。本研究では blog が持つ情報の収集・編集・発信のためのパーソナルメディアやデータベースとしての効果、コメント受付や参照通知と言った他者との並列的な blog コミュニケーションの有機性に着目し、今まで困難であった外部との強調やディスカッションを行うことによる学習環境を構築する授業手法を開発する。

情報通信文化論での実験

本研究のフィールドワーク項目として、2004 年度春学期に開講された小檜山賢二教授担当の授業「情報通信文化論」において、履修している学生・授業スタッフ全員に blog を導入し、blog を活用した授業を行った。

授業スタッフは授業用の blog に課題を出し、学生は自分の blog に課題の回答を行って、授業用 blog の課題エントリーに対して trackback を送る。これによって課題提出が完了する。

これまで授業で提出されてきた課題は、書いた学生と教員の間でのみ共有されてきた。情報通信文化論での trackback を用いた課題提出の方法では、学生同士で提出されている課題を見ることが可能であり、また学生間での課題へのコメントや trackback の送付も可能になった。

このため、これまで起きえなかった、課題を通じた学生間の情報共有や議論が blog サイト上で起きると同時に、事前に blog 上でディスカッションで話される内容が共有されているため、週に1回の授業の際でも有効に作用したものと考えられる。

また blog によるリアルタイム性がある議論展開の可能性の検証として、教室を閉鎖して blog のみで90分の授業に参加するという実験を行った。学生はインターネットに接続できるどこからでも授業に参加して良いという条件を付け、30分に1回出される課題に答えるという授業スタイルを実施した。

WebDesigning 誌に掲載

本研究を通じた取り組みや blog を用いたウェブデザインのユニークさが評価され、毎日コミュニケーション刊『WebDesigning』2004年9月号に掲載された。(修士論文の引用 P142～P143 に掲載)

修士論文

本研究は私が書いた修士論文「ウェブログを用いたコミュニケーティブウェブ構築手法」のケーススタディの検証の項目として、実験の規模や与えられた示唆の面で大きな部分を占めた。

修士論文の本研究に関連する項目を4ページ添付した。

以上

4.4 情報通信文化論

ウェブサイト

情報通信文化論 2004 年度春学期

<http://cafe.sfc.keio.ac.jp/jtb/>



情報通信文化論
information, communication,
and our glossy shiny culture.

syllabus

2004年度春学期『情報通信文化論』（小増山賢二担当）のシラバスと授業履修に関するお知らせ。課題、評価に関して掲載しています。必ず確認して下さい。

[→ 詳細](#)

assignment

[最終課題 メディアの使い分け](#) →
[詳細](#)・[提出](#)

[課題10 ユビキタスが描く社会像 or ユビキタスのためのアイデア](#) →
[詳細](#)・[提出](#)

[課題9 ユビキタスについて調べる](#) →
[詳細](#)・[提出](#)

information

blogging day 6.29
5月18日 糸井重良氏 ゲストレクチャー
[授業資料ダウンロード](#)

tips

[参照](#)・[引用](#)
[trackbackの打ち方](#)

June 29, 2004

最終課題 メディアの使い分け



| [\[more article!\]](#) | [permalink](#) | [comment \(1\)](#) | [trackback \(129\)](#) |

課題10 ユビキタスが描く社会像 or ユビキタスのためのアイデア



| [\[more article!\]](#) | [permalink](#) | [comment \(5\)](#) | [trackback \(122\)](#) |

課題9 ユビキタスについて調べる



| [\[more article!\]](#) | [permalink](#) | [comment \(0\)](#) | [trackback \(132\)](#) |

search

experience

- [assignment \(11\)](#)
- [information \(3\)](#)
- [log \(3\)](#)
- [syllabus \(1\)](#)
- [tips \(2\)](#)

recent entries

- [最終課題 メディアの使い分け](#)
- [課題10 ユビキタスが描く社会像 or ユビキタスのためのアイデア](#)
- [課題9 ユビキタスについて調べる](#)
- [課題8 ユビキタスとは何か？](#)
- [課題7 あなたの今いる場所はどこですか？](#)
- [blogging day 6.29](#)
- [参照](#)・[引用](#)
- [課題6 インターネットとは何か？](#)
- [again](#)
- [課題5 デジタル画像とは何か？](#)
- [課題4 インターネットとは何か？](#)

[Syndicate this site \(XML\)](#)

blog デザイン

サイトは3段組レイアウトを採用している。左側のサイドバーにはblogのタイトルとなっている画像に続いて授業のシラバスが登録してある「syllabus」カテゴリの最新1エントリーから概要を表示してある。「syllabus」カテゴリには1つのエントリーしか登録されておらず、変更がある場合は新たに投稿せずに、既に登録してあるエントリーを編集する。左側のサイドバーの残りのコンテンツは、「assignment」カテゴリに登録されている課題エントリーの最新5件、授業の情報を知らせる「information」カテゴリから3件、授業で活用するblogに関するテクニックを紹介する「tips」カテゴリから最新3件をそれぞれリストしている。

右側のサイドバーには検索ボックス、カテゴリリスト、全てのカテゴリを含めた最新10エントリーのリンクを掲載している。そして中央の本文フィールドには、課題情報である「assignment」カテゴリの最新3エントリーのみを表示させる設定となっている。

教室としてのblog

このblogは「授業ウェブサイト」から発展させて制作している。通常授業ウェブサイトでは授業の資料や情報を提供する役割を果たすに留まっているが、このサイトでは課題提出とそれを元にした学生間の議論の場にもしている。この情報通信文化論では、履修している150名あまりの学生全員にblogを導入してもらい、課題は自分のblogにエントリーをして、そのエントリーから授業ウェブサイトの課題エントリーに向けてtrackbackを送ってもらう。trackbackが登録されれば提出が認められる。

学生は自分のblogに課題を書き込む、つまりインターネット上に自分の意見を書き込むことになり、課題エントリーには他の学生が提出している課題が全て集まってきて、リンクをたどって読みに行くことが出来る。つまり今までは教

員のみが見ていた学生の課題を、履修している学生間、あるいはインターネットのユーザー全員が見ることが出来るという状況を作り出すことになる。blogによる課題提出の過程で、学生に対してblogが持っている情報の収集・編集・発信のパッケージを体験してもらう目的もある。

一方でこの授業とウェブサイトを使って実験を行った。遠隔授業ならぬ「分散授業」である。2004年6月29日の授業で学生に「授業の時間に教室には来ないで、ネットの繋がる場所において下さい」とアナウンスをして教室を閉鎖しておいた。そして90分の授業中に3回の課題をblogに発表し、それぞれ30分ずつ考えてもらって各課題エントリーにtrackbackをその場で送ってもらった。普段の授業では90分間で、1人1分意見を発表し続けてもらっても一番多くて90人の意見しか聞くことが出来ない。ところがこの実験では同じ90分間に150人の学生がblogを通じて3回発言し、それがtrackbackとしてウェブサイトが集まったのだ。

これはblogを用いた授業ウェブサイトによる、情報提供や課題提出以外の活用方法を示唆するものであると考えており、意見収集やそれを元にしたblogベースのディスカッションを行う際に、これまで以上の効率性を発揮したと言える。blogデザインからコミュニケーションを設計している1つの例であり、インタラクティブなコラボレーションウエアとしてのウェブサイトをblogで構築する可能性を示唆を与えてくれるものである。

なおこのblogデザインと活用は、「3.14 Web Designing 取材」で触れたとおり、(株)毎日コミュニケーションズの月刊誌Web Designingに掲載された。

3.14 Web Designing取材

Web Designing の blog 特集に登場

http://www.tarosite.net/2004/08/web_designingb.html

2004年8月18日 1:26

カテゴリ:SYNDICATE コメント:1 trackback:0

昨日の朝日新聞夕刊文化面に続いて、今日発売の毎日コミュニケーションズ『Web Designing 2004/9』の blog 特集に紹介されています。90 ページを開くと BOXER 小川さんのインタビューがあるのですが、ここに添えられている BOXER のトップページのスクリーンショットに小さく登場。

そして 100 ページに、小檜山師匠と共に受けたインタビュー原稿が掲載されています。2004 年度春学期に実施した blog を活用した授業、情報通信文化論のレビューをしています。自分が作った blog サイトが図解されているのはなんだか気恥ずかしいものですね。

Web Designing は創刊号から愛読している大好きな雑誌だったので、そこに掲載されるというのは何ともうれしいものだ。他にも blog の活用についていろいろ紹介されているので、ぜひ皆さん読んでみてください。

紙媒体との連動性はまだ低い

情報通信文化論は、慶應義塾大学 SFC で開講されている小檜山賢二教授担当の授業で、文化の多様性と情報通信との関係について学ぶことが目的となっている。この情報通信文化論には 2003 年秋学期（10 月～2 月）の授業から学生 1 人 1 人に blog を導入してもらい、blog の機能である trackback を使って授業のウェブサイトに対して課題提出を行い、課題を履修者間で共有するという、斬新な授業スタイルを実践している。Web Designing 誌の blog 特集では、その特異な活用方法についての取材を受け、これが掲載された。

このアイデアは 2003 年 5 月から 6 月にかけて blog を用いて議論を活発に行っていた時期に思いついたもので、2003 年 10 月、2004 年 4 月にそれぞれ始まった情報通信文化論で実践していた。雑誌に掲載されたことで、ネット上に限らず、小檜山研究室で blog 研究が行われていることへのアピールとなったと思われるが、tarosite.net に関しては URL が紙面に載っていたわけではないのでページビューの増加等への反応はない。

ところが検索キーワードには「松村太郎」が上位に入っている。これは朝日新聞と Web Designing 誌に名前が掲載されたことで、その名前から検索エンジンに当たってページに訪れるユーザーの流れが出来たものと考えられるが、「松村太郎」で検索して tarosite.net に訪れたのは、全検索キーワード中わずか 2.7%、4 位に留まっている。

ちなみに 2004 年 9 月号 Web Designing 誌 blog 特集には、日立 BOXER のスクリーンショットが掲載されているほか、私が blog を用いたデザインを手がけた参議院議員ふじすえ健三氏のウェブサイトも掲載されている。

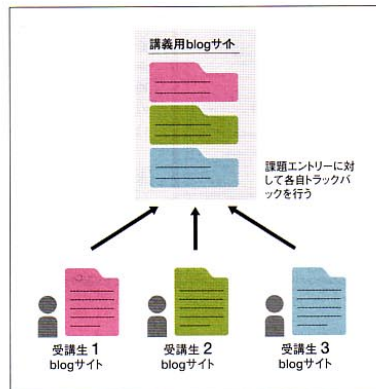
blog活用事例



慶應義塾大学「情報通信文化論」サイト
<http://cafe.sfc.keio.ac.jp/jtb/>

Powered by Movable Type 2.661

今回の講義用のサイト。講義で出された課題 (assignment) は、このサイトのエントリーとして表示されている。この課題エントリーにトラックバックされたレポートを元に、実際の講義ではディスカッションが行われる



受講生一人ひとりがblogを立ち上げ、講義用サイトに投稿された課題エントリーにトラックバックして、レポートを提出している

課題レポートはトラックバックで みんなの意見が共有できる大学講義



慶應義塾大学大学院教授
小椋山賢二氏

慶應義塾大学大学院生
松村太郎氏

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおいて、小椋山賢二教授が行っている「情報通信文化論」という講義では、約120名の受講生一人ひとりがblogを用意して参加している。大学の講義とblogという意外な組み合わせ、いったいどのように活用しているのだろうか？

「情報通信文化論」では、ネット社会を取り巻く要素について、学生自身が、固定観念にとらわれず、いろいろな視点で考えることを目的としている。どのようにblogを利用しているかという、まず講義で次回の課題を出題し、講義用blogサイトにその課題内容をエントリーとして登録する。受講生たちは各自のblogにレポートを書き、課題エントリーにトラックバックして提出。小椋山教授がそれらをチェックし、次回の授業でみんなでディスカッションを行うのだ。以前は、レポートを提出してもらい、ネット上で公開していたが、去年の秋からこのblogシステムへと移行した。その理由について、小椋山教授は次のように語る。

「自分自身で考えると同時に、モノの考え方は多様であるということも知らうために、学生同士が意見を共有できる環境が必要だと感じていました。以前のシステムでは、公開までに時間と手間がかかりましたし、なかなか学生たちも見ようとはしませんでした。blogを使うことで、瞬時に意見が集まり、気軽に参照しあえる環境が提供できていると思います」

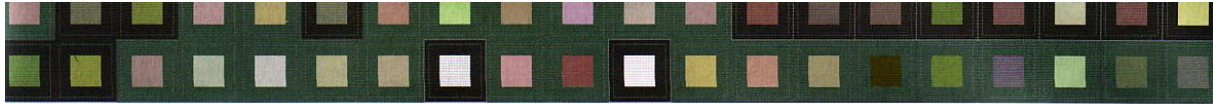
また、同講義のティーチングアシスタ

ントで、講義用サイトのデザイン・運用を担当している松村太郎氏によれば、学生自身にもメリットがあるという。

「blogに書くことで、自分が考えたことのログが残ります。そうした蓄積から、自分が何に興味があるのか、どんな風に考えているのかという、自分自身の思考パターンが見えてくると思います」

blogを利用したことで、授業内容にも幅が出ている。一度「インターネット」という課題を出しておいて、後の授業で、他の学生のレポートを参照しながら同課題について再考するということができたり、「ユビキタス」を課題とした時は、教室には来させず、電車内や自宅から遠隔的に参加させるなど、濃密な講義が可能になったと小椋山教授は言う。しかし教授がblogを採用したのは、ツールとしての便利さゆえだけではない。

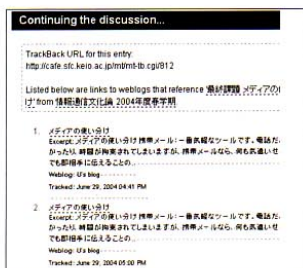
「blogによって、自分の意見を自分の名前で公表するという流れが大きくなってきました。こうした有名性の情報発信が、これからの世の中を動かしていくメディアになっていくのではないかと考えています。そういうメディアを学生たちに体験させたい、という狙いもありました」



blog Analysis

課題が目立つシンプルな構成に

特にデフォルトのblogレイアウトからカスタマイズは行っていないが、講義用サイトとしてメインページで課題がわかりやすく目立つようになっている。また、受講生からのトラックバックは、実際の授業でのディスカッションの材料となるため、見つけやすいように工夫している。



生徒のレポートとなるトラックバック部分。授業で小椋山教授が指摘したレポートが誰のものなのかを見つけやすくするため、各トラックバックに番号がつくようにカスタマイズしている

講義のsyllabus (要旨) カテゴリーは、1つのエントリーだけを登録し、その内容を表示

カテゴリーリスト。重要な内容があるカテゴリーは、左側に別途表示している



assignment (課題) などの重要なカテゴリーは、そのエントリータイトルを別途表示して、更新がすぐわかるようにしている

現在の課題がわかりやすいようにassignment カテゴリーの内容だけを表示するようにしている

最近のエントリーリスト

美大生が考えだすアイデアblog

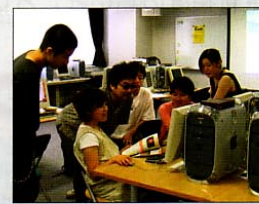


UFOなどの未確認物体を見かけたら、moblogを活用して投稿する「UFO FREAKS!」。投稿された情報に対し、ユーザー投票を行い真偽をジャッジする



音楽制作を行う人が参加し、作品発表を行うという音楽レーベルblog。エントリーに作品をダウンロードするためのURLを記し、トラックバックでプロモーションを広げる

デザイン情報学科を持つ武蔵野美術大学では、blogの情報アーキテクチャについて教える講座をいち早く取り入れた。「Webコンテンツ編集」と題されたこの講座は、「ワイアード日本版」の元副編集長で、現在はデザイナーとして活躍する深沢英次氏



を講師として迎え、blogの有用性から、実際の運用方法までを教えるというものの。教材には、カスタマイズの柔軟性からniftyの「コログ」が採用された。この講座の最後に出された課題が「日記以外のblogコンテンツを企画する」。将来のWebデザイナーたちが考える“blogセカンドステージ”とは、いったいどんなアイデアなのだろうか。左で紹介しているものは、そのアイデアの一部。他のアイデアが気になる方は、授業用サイト(<http://nora.way-nifty.com/mau/>)へ。

fig 3.14.33 Web Designing
2004年9月号 P101
(株)
毎日コミュニケーションズ